

# 瓊浦

第2号

令和2年3月1日発行

瓊浦高等学校

住所 長崎市伊良林  
2丁目13番4号

電話 826-1261(代)

FAX 820-5245

## 第71回卒業証書授与式 挙行!!

今年もこの季節がやって来た。令和二年三月一日。瓊浦高等学校第71回卒業証書授与式が行われる。今年度瓊浦高等学校を巣立っていく第七十一回生の数は二八九名。三年間の高校生生活を終え、進学・就職といったそれぞれの道に進んでいく。

**思い返してみると、三年間は長いようで短い。楽しいこと、悲しいこと、嬉しかったこと、辛かったこと。色々なことがあった高校生生活もこれで終わり。毎日のように顔を合わせていたクラスメイト、部活動の仲間の顔も明日からは見られなくなる。四月からは、それぞれがそれぞれの道で、それぞれの新たなスタートを切る。**

けれども、高校生活の思い出は、きつとそれぞれの胸に刻まれていることだろう。

**共に学び、共に笑い合い、共に励まし合った仲間たち。**決して色褪せることのない青春の一ページ。それは、かけがえのない宝物。二八九名の卒業生には、二八九通りの未来がある。瓊浦を巣立ち、これからどんな未来が待っているのだろうか。いまから非常に楽しみだ。



# 卒業おめでとう!!



### 卒業生表彰者一覧

- 👑 瓊浦学園賞  
高比良真季(普通科A組)
- 👑 校長賞  
古川 愛夏(普通科A組)  
山中 黎亜(情報ビジネス科B組)  
平野 美穂(機械科A組)  
北野 真帆(情報ビジネス科B組)
- 👑 私学賞  
根本 暖(機械科A組)
- 👑 県教育委員会表彰  
藤木優希奈(普通科A組)
- 👑 産業教育振興中央会賞  
山田 琳菜(情報ビジネス科A組)  
脇濱 智輝(機械科C組)
- 👑 商業教育成績優秀者表彰  
山本 咲希(情報ビジネス科A組)
- 👑 県高体連表彰  
男子ハンドボール部  
男子バドミントン部  
原口くるみ(情報ビジネス科A組)  
林田 洋翔(情報ビジネス科A組)
- 👑 県高体連卒業生顕彰  
中村 羽衣(普通科B組)
- 👑 県高文連卒業生顕彰  
木下 知己(機械科B組)
- 👑 全国高校生新聞表彰  
放送部
- 👑 特別功労賞  
男子ハンドボール部  
男子バドミントン部  
浅野 俊(普通科D組)
- 👑 体育文化功労賞  
林田 洋翔(情報ビジネス科A組)  
原口くるみ(情報ビジネス科B組)
- 👑 特別奨励賞  
近藤 大翔(普通科B組)  
林田 梨桜(普通科B組)  
立川 寛樹(機械科B組)

「もうダメ」ではなく、「まだダメ」なのだ。

これは二月十一日に亡くなった、プロ野球界のレジェンド野村克也さんの監督時代の名言である。享年八十四才。現在のソフトバンクの前身である南海に所属し、戦後初の三冠王をはじめ、通算二九〇一安打、六五七本塁打、一九八八打点と輝かしい成績を残したまさに日本プロ野球の伝説的存在であった。監督としても日本一に三回輝き、捕手ならではの視点でデータ重視の「ID野球」という言葉を浸透させるなど名将として名を馳せた。また、晩年は、解説者としてもメディアに引張りだいで、その独特の語り口調は「ぼやき」などと称され、多くの人々から人気を博した。

そんな野村さんの哲学がこの言葉には表れている。諦めずに努力を重ねることの大切さ。決して学生時代からスター街道を歩んできたわけではない野村さんならではの言葉に感じられる。野村さんが今の時代の若者に向けた言葉がある。

コンピュータがどんなに発達しようとしても、仕事の中心は人間だ。ならばそこには「縁」と「情」が生じる。それに気づき、大事にした者がレースの最終覇者となるのだと思う。

これからの社会は、ますますの科学技術の発展、AI革命などと騒がれ、社会自体がどのように変化していくのか、一寸先も予測できない困難なものであると予想される。そんな中に飛び込んでいく二八九名の卒業生たち。時には壁にぶつかり、悩み苦しむこともあるだろう。「もうダメだ」と諦めかけてしまうこともあるだろう。けれども、覚えておいてほしい。最後に勝つのは最後まで諦めなかつた「諦めの悪い」人間だ。そして、自分ごとだけで精一杯のこんな時代だからこそ、他者との「縁」や「情」を大切にすることが評価されるのだということ。

野球界のみならず、多くの人々に愛された野村克也さん。そのご冥福をお祈りする。そして、卒業生の皆さんには、立場は全く違えども、野村さん以上の輝きをそれぞれの人生で放つてくれることを大いに期待したい。



第三学年主任 山口 敦 先生

「知識から経験へ」

第七十一回卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

皆さんはこれまでは保護者に守られ、先生に守られ、学校という安全なカゴの中で、生徒という肩書きによって文字どおり「加護」を受けてきました。しかし、これからは一人の大人として責任と自覚を持って行動することが求められます。

時には「辛抱」や、「忍耐」が必要な時もあるでしょう。しかしながら、皆さんが夢を持ち、その夢に向かって、情熱を持って行動すれば、必ず道が開けます。努力も、忍耐も、結果としては「すばらしい経験」となって、皆さんの中に蓄積されていくことでしょう。人が物事を判断する時、知識だけではなく「経験」が非常に重要な役割を果たします。これまでの学校生活で学んできたことが「知識」だとすると、これから先の人生で得られる「経験」が皆さんを格段に豊かな人間にしてくれます。

どうか皆さん、恐れず、ひるまず、前向きにチャレンジしてください。どんな経験も必ずみなさんを育ててくれます。

最後に、これからは自分で自分を律していかなければなりません。あなたの頑張り次第でいくらでも未来を変えることができます。どうか、夢を叶えるための努力を惜しまないでください。

普通科A組担任 小野 友樹 先生

七十一回生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんと共に過ごした三年間は私にとって宝物です。三年間を今振り返ってみると、私は一年次の宿泊研修の登山がとても印象に残っています。

私は先頭で出発し、無事に下山しました。下山した後、全員が揃うまで広場で待っていました。しかし、最後の班が途中で道を間違えたらしく、なかなか戻ってきません。先に下山した人は何

普通科C組担任 玉島 健太郎 先生

私はバレーが好きです。幼い頃、父のスパイクが顔面に当たった時から嫌いになりました。私は水泳が好きです。努力の成果が数字として正確にあらわれるからです。

ブラック企業という言葉が使われ始めて久しいです。また、SNSで誰でも発信できるようになり、「それぞれが考えるブラックな部分」が紹介されるようになりました。

卒業後、新しい環境で生活するにあたり、相應のストレスを感じるようになると思います。その際、人の考えを規準に行動するのは危険だと感じます。私が嫌いなバレーでも、楽しい人はたくさんいるでしょう。あなたの人生は、あなた自身で判断して下さい。瓊浦高校でそれを学べていることを願っています。

普通科C組副担任 岩原 数憲 先生

進学・就職と新たな道へ進む皆さんは、希望に胸を膨らませていることでしょう。人生は航海に例えられます。ある人が「自力で船を漕ぐことだけでは遠くへ行けない。遠くへ行きたければ他力が必要だ」と言っています。世の中には自力だけでやれることはそう多くはないし、だれかの支えや助言が必要です。また、他人の意見を素直に聞き、周りの人に感謝する気持ちが必要です。航海は穏やかな波ばかりではなく、荒波もやってきます。皆さんは何事にも負けないで、与えられた才能の芽を大きく育て、大輪の花を咲かせてください。

普通科D組副担任 堤 利貴 先生

制服を身につけた君たちへの最期のアドバイスです。

一言葉を大切にしてください。考えが言葉となり、言葉は行動となり、行動は習慣となり、習慣は人格となるからです。日々、発している言葉が人格を形成していくのです。

二 エチケットやマナーを軽んじることがないようにしてください。これを軽んじている人がいると、多くの人が嫌な思いをします。

三 最期は命令です。親よりも先に死ぬな！

卒業おめでとう。君たちと出会うことができ良かった！

情報ビジネス科A組担任 足立 陽平 先生

ご卒業おめでとうございます！三年間皆さんと関わる事ができ、本当に嬉しく思います。七十一回生の皆さんは、本当に個性的で元気が良く、会話をしたり、挨拶をしてもらったり、私も三年間でいっぱい元気をもらうことができました！！

令和最初の卒業生ということで、皆さんはこれから新時代を走っていくこととなりますが、時には寄り道したり、休憩したり、景色を眺めたりして、楽しみながら新しい時代を駆けぬけていってください！

機械科A組担任 本田 喬士 先生

第七十一回生の皆さん。卒業おめでとうございます。

皆さんが入学してきた日がついにこの間のように思い出されます。これから皆さんは新しいステージに立ち、別々の道を歩んでいきます。たくさん失敗もするでしょう。たくさん悩むこともあるでしょう。その全てを自分の糧とし、力に変えて下さい。皆さんは多くの可能性に満ちています。これからのみなさんのご活躍を心よりお祈りしています。

機械科B組担任 森高 康信 先生

令和二年の始まりは、色々な形で同窓生の雄姿が見られました。一月に行われたニューイヤークラッシュ、大学の名誉を掛けて走る箱根駅伝、広島で行われた都道府県対抗男子駅伝競走大会に、本校関係者（担任をさせてもらった同窓生や生徒）が出演していました。在学していた頃を思うと、本当に力を付け頑張っている姿は頼もしく思えました。

卒業生の皆さんも新しいスタートラインに立ちます。夢と希望で一杯の君たちは、無限の可能性を秘めています。社会へ出て絶対に成長します。絶対に力が付きます。絶対に活躍できます。君たちに携われて、この出逢いに感謝します。平成から令和へ時代の節目を迎え、また、東京オリンピックが開催されるこの記念の年に、新しいスタートを切る卒業生の皆さん、君たちの持つ無限の可能性と、更なる飛躍を期待します。

機械科B組副担任 米井 秀和 先生

瓊浦高校の近くにある龍馬像のそばに次の銘文の石碑があります。『船が長崎の港内に入ったとき、龍馬は胸のおどろくような思いをおさえた。『長崎はわしの希望じゃ』と、陸奥陽之助にいった。『やがては日本回天の足場になる』ともいった。』これは、司馬遼太郎氏の『龍馬がゆく』の一節です。龍馬は、長崎を足場として、幕末の激動の時代を明治維新に向かって駆け抜けていきました。

皆さんがこれから進んでいくとする未来は、決して楽なものではありません。高度情報社会、



生徒たち。

になった先生方から、メッセージ。

# ルーム

れたのは、

だけではない。

ったから。

時間も部屋に戻らず広場で待っていました。数時間経ち、ようやく最後の班が戻ってきました。誰一人後ろ向きな発言をせず、拍手で迎え入れました。登山という目標を成し遂げ、初めて全員が一つになったような感覚を覚え、私は「なんて素晴らしい学年なんだろう。皆の夢の実現に向けて三年間一緒に頑張りたい」と感じたことを今でも鮮明に覚えています。

あれから三年が経とうとしています。私は皆さんに何ができたでしょうか。ほんの少しでも力になったのであれば幸いです。これから様々な経験と人との出会いを通して立派な人間になって下さい。ありがとう。そして、さようなら。

普通科B組担任 大野 大輝 先生

「卒業おめでとう」です。これから皆さんは各々の道を進んでいくことになります。きつときついことも辛いこともたくさんあると思いますが、「笑顔」でいることを忘れず毎日過ごして欲しいと思います。トーマス・エジソンという人物をご存じでしょうか。彼は耳を悪くして聞こえづらくなったりも「おかげで雑音に煩わされることなく集中できるようになった」と笑い、たくさんの発明をしてきました。どんな苦境に立たされても笑顔を忘れず、前に進んで欲しいと思います。

普通科B組副担任 菊川 仁美 先生

「卒業おめでとう」です。自分の将来、進む道は、自分で決めなければなりません。どんな人生を歩みたいのか、自ら考え、行動していくからこそ、面白くなります。もちろん辛いこと、苦しいこともたくさんあると思います。偉大なNBAプレイヤーの一人、コービー・ブライアントは「失敗をおそれては、失敗するだろう。全てのネガティブなプレッシャー、困難は全て自分の成長のための大切な機会だ」と言っています。失敗も含めて、自分の人生を楽しめる人になって下さい。



高校卒業という人生の大きな節目を迎えた289名の

# 最後のホーム

3年間お世話の最後

ここまでがんばってこられ、決して自分1人の力、家族、友人、そして、先生方の支えがあ

普通科D組担任 山川 貴広 先生

卒業生、保護者のみなさま、卒業おめでとう。君たちとともに歩んだ三年間は、あつという間の一時でした。学校行事・授業等、互いに刺激し合いながら成長していった日々を、ありがとう。これからは、進学・就職と皆それぞれの未来に向かつて歩んでいきます。多くの人に出会い、楽しいことや悲しいことなど様々な経験をすると思います。いろんな考えの人と出会って自分の世界を広げて下さい。

高校時代の仲間、きつとあなたの心の支えになるはず。仲間を大事に、ここまで育ててくれた保護者を大事に、そして自分自身を大事にして下さい。これからの活躍を楽しみにしています。

情報ビジネス科B組副担任 岡田 義晴 先生

長いようで短かった三年間。長かった！という君！あつという間だった！という君！それぞれの三年間、それぞれの思い出を作ったこの学び舎ともお別れし、次のステージへと進んでいく君たちに「贈る言葉」...

いろいろ考えましたが、これにします！「君は勘違いしているんだ。道を選ぶということは、必ずしも歩きやすい安全な道を選ぶってことじゃないんだぞ！」(ドラえもん)

情報ビジネス科B組担任 坂口 祐次 先生

「卒業おめでとう」です。一年間という短い間でしたが、随分長い一年に感じました。皆さんはこの高校生活で、自分の行動に責任を持つこと、今何をすべきかを自分で判断することを学んだと思います。これからも、ときに失敗することや、想像と違う結果になり、困ることもあると思いますが、自分で考え行動できる力を持つて瓊浦生なら大丈夫です。卒業後の進路は様々ですが、これからも自分の道を自分で決め、素直な人生を歩んでいってくださいね。

機械科C組担任 橋本 武大 先生

地球規模による環境問題や自然災害、世界的な経済問題など、多くの問題を抱え、社会の変化はますます複雑になっています。皆さんは、龍馬のように希望を抱いて、長崎から変化の激しい時代にこぎ出していくことになり。予測もしなかつた困難な問題に直面することがあるかもしれません。その時、その場で正しく適切な判断を下すためには、新たな材料や知識を求め、経験を積んでいかなければなりません。いつでも可能な限りより新しい情報を身につけていこうとする、すなわち「生涯にわたって学び続ける」気持ちと態度が必要になります。卒業後も、生涯を通して学び続け、輝かしい未来を生き抜いてくれるよう願っています。

機械科C組副担任 荒木 康正 先生

「行く言葉が美しければ、来る言葉も美しくなる」

「卒業おめでとう」です。若き日に大切なことは他者からの助言を素直に受け入れること。自分のペースで成長し生きることだと思っています。あなたが言った言葉はそのまま自分に返ってきます。常にあなたを支える周囲の方々への感謝の言葉も忘れずに。益々のご活躍を楽しみにしております。

# アーノルドに聞いてみた

# 日本でこの二年間を振り返る

interview

●今年度の卒業式を迎えるにあたって、ある意味七十一回生の「顔」とも言えるコンゴからの留学生アーノルドくんインタビューを行った。コンゴから日本に来て三年、一度も故郷に帰ることもなく、バスケットボールに打ち込んだ三年間。文化の違いや言語の問題など様々な苦労を乗り越え、たどり着いた卒業式。高校生活の思い出や今後の夢などを話してもらった。

## ■高校生活を振り返って感想をお願いします。

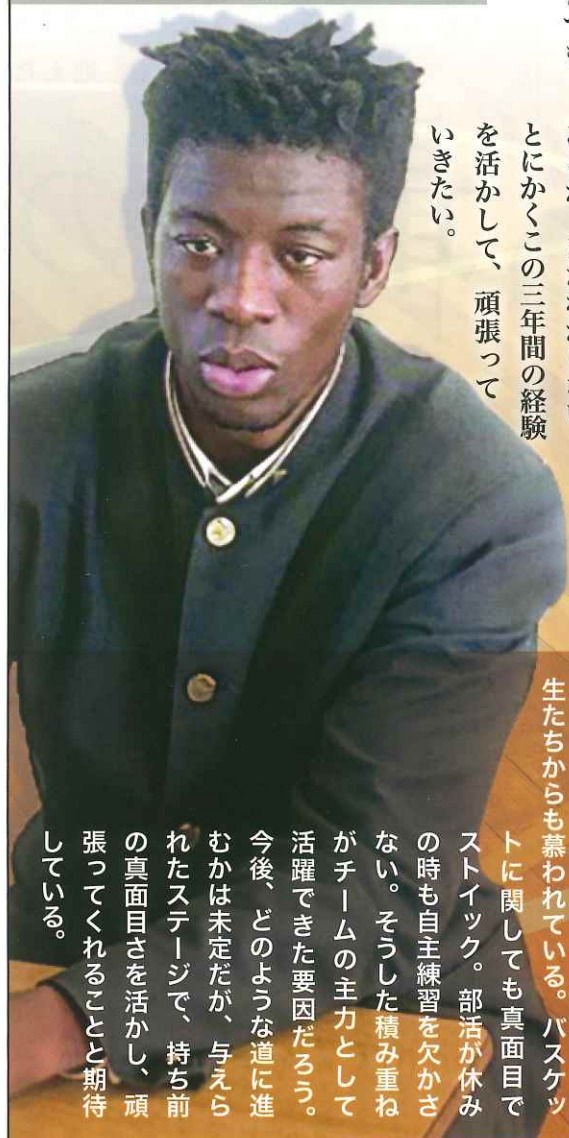
入学した頃は、日本語が全くわからない状態だったので、コミュニケーションが取れずきつかった。今もあまり上手にはしゃべれないけど、少しは皆が言っていることが理解できるようになってよかった。バスケットの練習も、最初はとてもしつかったが、徐々に慣れ、楽しくプレーすることができた。

## ■最も思い出に残っていることは何ですか？

バスケットでいうと、思い出に残る試合が幾つもある。高総体やウィンターカップでの県大会決勝。また、そこに行くための東高戦や佐世保西高戦が印象的だった。また、遠征で行った福岡第一との試合。日本一の高校と戦ったのはとても良い経験となったし、良い刺激となった。学校の生活で言うと、修学旅行が思い出に残っている。その中でもスノーボードをしたことが思い出に残っている。あんな雪を見たことも初めてだったので、とても楽しかった。

## ■今後の目標・夢を教えてください。

卒業後どうするかは、まだはつきりとは決まっていない。ただバスケットボールは続けていきたいと思っている。英語を勉強して大学に行ければという思いはあるが、まだわからない。とにかくこの三年間の経験を活かして、頑張っていきたい。



●まだまだたどたどしい日本語ではあるが、明るくインタビューに答えてくれたアーノルド君。三年間同じクラス、同じ部活で活動してきた喜多君はアーノルド君について、「みんなのことを考えることの出来る優しい奴」と語った。三年間バスケットボール部の指導のみならず、自宅に住まわせ、まさに寝食を共にしてきた顧問の植生先生に話を聞くと、「とにかく三年間まじめに頑張った。高総体、ウィンターカップでの県大会準優勝は彼無しでは為し得なかったと思う。」とその頑張りや賞賛した。本来は真面目でおとなしい性格。言葉が通じない中での生活には、かなりのストレスを感じていたことだろう。そんな中でも他の生徒から話しかけられると笑顔で対応する優しさは、同級生たちからも慕われている。バスケットに関しても真面目でストイック。部活が休みの時も自主練習を欠かさない。そうした積み重ねがチームの主力として活躍できた要因だろう。今後、どのような道に進むかは未定だが、与えられたステージで、持ち前の真面目さを活かし、頑張ってくれることと期待している。

# 合格体験記

長崎県立大学 経営学部

経営学科 合格

小浦 萌 (普通科A組)



私は将来の夢が決まっていなかったため、なかなか志望校が決まりませんでした。しかし大学に進学するならば国立大学に行きたいと思い、長崎県立大学受験を決めました。私にとってはレベルが高く、合格するのが難しいのはわかっていました。諦めかけていました。けれども、オープンキャンパスに参加して、「この大学に入りたい」と強く思うようになりました。

部活を引退してから本格的に勉強に取り組み始めました。毎日夜遅くまで小論文や面接練習を行いました。私は小論文を書くことがとても苦手だったので、何回対策を行っても自信をつけることができずに不安を抱えたまま受験本番を迎えました。しかし、出題された問題は対策を行っていたものだったため、自信を持って解くことができました。今まで諦めずに対策を行ってきた良かったと思えました。面接では、時事問題に上手く答えられず、不合格だと思っていたため、合格発表日は緊張していました。驚きのあまり何度も受験番号を確認したことを強く覚えています。

受験を終えて思うことは、もっと早くから行動しておけばよかったということです。志望校を早いうちから決めて、その目標に向かって勉強していけば、より良いスタートが切れると思います。

# 復興は始まったばかり

## ～東日本大震災を考える～

災害  
学習



### 修

学旅行の一日目、羽田からバス移動を経て、福島県いわき市へと向かった。福島県は九年前の東日本大震災において、岩手、宮城に次ぐ被害を受けた県。なかでも今回訪れた薄磯地区は、太平洋に面した場所に位置し、震災の際には町の半分以上が津波で流されたという場所である。

### 到

まだ辺りが見渡せる時間であったが、その際は海岸沿いにきれいな道路、何も建物のない平地が広がっており、きれいな場所だという印象を受けた。けれども、震災前は家々が立ち並ぶ住宅地で、人々が住む「町」だったという話を

聞くと、今見ている気色が、全て津波によって流された跡地だということに気づかされ、改めて津波の恐ろしさを痛感させられた。

### 実

際に現地に住んでおり、被害を受けた語り部の大谷さんの話を聞くと、ますます津波の怖さがリアルに感じられた。大谷さんは震災当日も家にいて、逃げた際にも背中のすぐそばまで津波が迫ってきたという話を臨場感たっぷりに語って下さった。そして、僅かな判断ミスが生死に関わるということ、ただマニュアルに従うのではなく、自分たちの判断で行動することの大切さを語って下さった。話を聞いた生徒たちからは、「正直泣きそうになる程リアルだった」「実際に経験した人の話は臨場感があり、恐怖を感じた」「自分で考えて行動することの大事さを改めて学んだ」などの感想が聞かれ、改めて震災の恐ろしき、被災した人たちの苦悩等を学ぶことができた、実のある学習になったようであった。

### 大

谷さんの話の中で印象に残ったフレーズがある。「政府は、『復興は終わった』みたいなことを言うが、本当は『今始まったばかり』だ」というものである。九年という歳月が過ぎ、徐々にその記憶も薄くなっていく現状。しかし、被災された方々にとっては、震災は過去の出来事ではなく、いまだ現在進行中のものなのだという

薄磯地区（震災前）



薄磯地区（震災後）

ことを再確認したお話であった。遠く離れた長崎の地に住む私たちにとっても、こうした自然災害は決して対岸の火事ではない。いつ何時自分に襲いかかってくるかも知れない自然災害。果たして有事の際に最善の行動をとることができるだろうか。今回の震災学習では、そうした自身の考えの甘さなども学べた良い機会となった。

今回私が受験をするにあたって、沢山の先生方が協力してくださいました。合格できたのは先生方や家族・友人の支えがあったからだと思っております。とても感謝しています。大学入学後も、感謝の気持ちを忘れず頑張りたいと思います。

トヨタ自動車株式会社 内定  
根本 暖（機械科A組）



私は今回、第一希望だったトヨタ自動車株式会社専門部から内定を頂くことができました。

私は二年生に進級するときに就職を意識し始め、「自分の希望を叶えるために龍馬コースに入り、良い成績を残さなければ」と思いました。そこで、二年次から龍馬コースに進み、学習方法を改善しました。特に気をつけたのが、授業中の取組です。ノートを取るのにも、ただ写すのではなく、後で自分が確認しやすいようなノート作りを心掛けました。その結果、テスト前に復習する時間が短くなり、効率よく学習することができました。そして、希望するトヨタ自動車を受験できることになりました。

私は受験勉強への取組が遅く、受験直前に余裕を持って勉強することができませんでした。よって、時間に余裕のある一、二年生のみならず、早いうちから進路について真剣に考え、目標をしっかりと持ち、勉強しておくことをお勧めします。自分の努力次第で選択肢をどんどん広げていけるので、安易に妥協せずに頑張ってください。